



繪本忠臣藏
 後篇
 四

中村進午文庫
 文庫5
 702
 14



所藏 BBS
IV
514 4
文

所藏 HK
中村文庫
9642
小 4

繪本忠臣藏後篇卷之四

目錄

- 伊久田喜内為頼母義子
- 喜内為其主設奇計令飲藥汁圖
- 其二 由良之助趣山名城圖
- 諸士始服由良之助大量
- 挿花變告大凶 目圖
- 大星妻巖家事御悔圖



昭和五一年十二月十日
中村本天

昭和三十三年十二月十七日
法學部研究室より移管

繪本忠臣蔵後篇卷之四 目録

○大星訣断制諸士惑乱

○諸民載酒送大星

○附老僕勝助請遺物・四回

○同遺物摸圖

○大星卜居山科

○附山科稻荷怪異・一回

以上

繪本忠臣蔵後篇卷之四

諸士配置列次 附諸士送傳

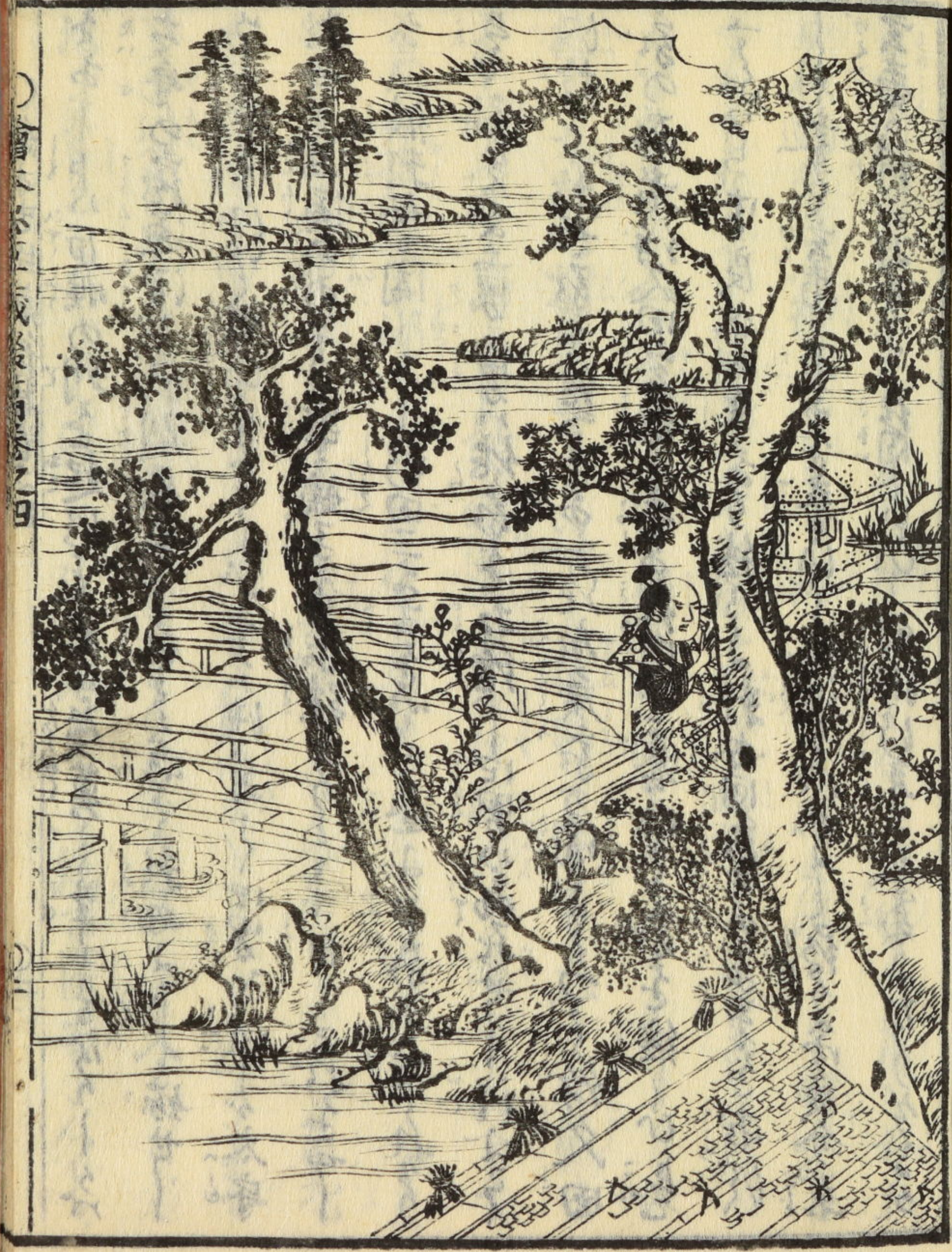
元川右門頼三郎

大星中良助

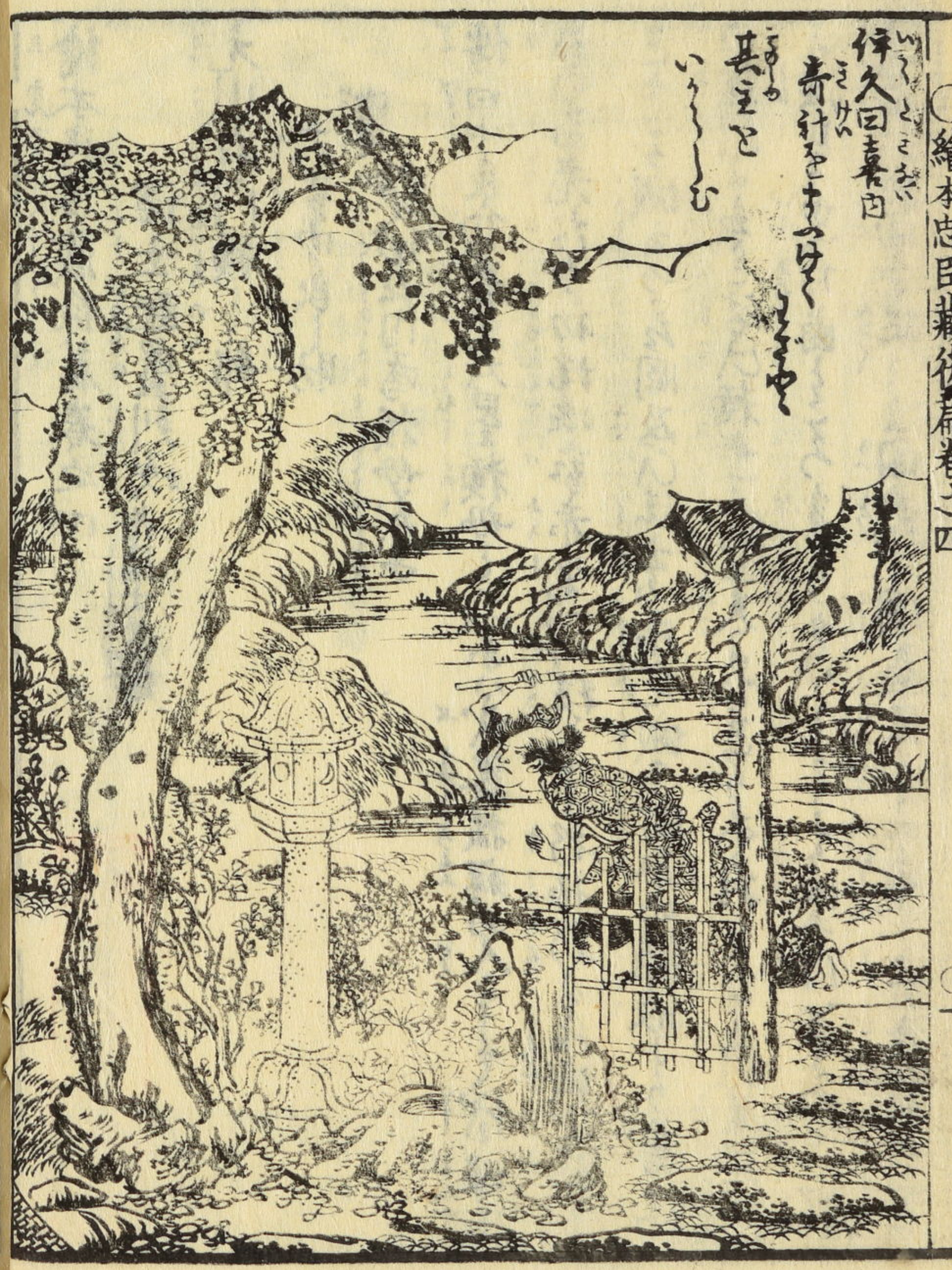
傳 伴久田内為頼母義子

傳曰中良介が養父大星頼母といふは武畧拔群の人にして代塩治
 家の老老たり初塩治家赤毛川移らる折招新居城と築り
 是より城方の三圍及び法士の居宅城下町家の繩張より善治
 の家川よきとほけ頼母一人の工夫よきより志をたしめ其國法
 よきより由り存齒とより多より多のよきより地の理とより
 漢及び新田を巡りて國教一國益年とよりよきより上六廣家の



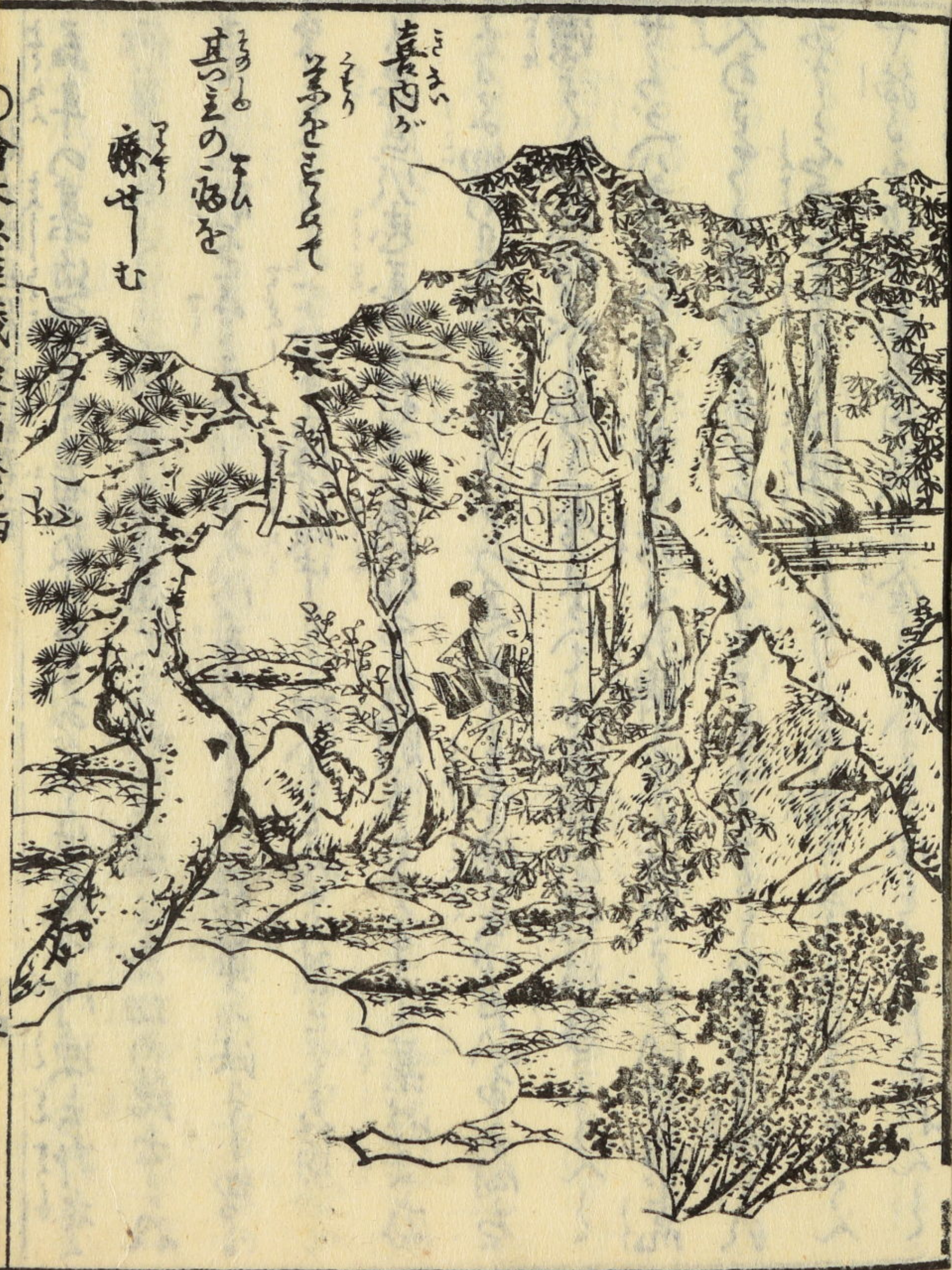


繪本忠臣蔵後篇卷之四



伴久回春田
奇針をすまはく
其主と
いへり

繪本忠臣蔵後篇卷之四



喜内が
そのまを
其のまの二つを
藤せむ



繪本忠臣蔵巻之四

四

若年の某辺頭方より負ぬらまゝあがけ及の清煉云抄者よ
 作付らむとていつくは云番大よ怒りし歴々老切の徳士これ
 まじく肝をさすれりし四月のあさね弱軍の汝より出るも
 半ころよれ一太半の洋渡中より扱ふと叱り付まじし其内が
 も恐るは忠義に於ては老弱の勇別もござるまじ某様よお
 ころ子細の事ごころかハハつるより一素が練云四月のあさね
 潔く切後仕へりか一令よても是非は後後子もくんと
 せらぐは云番いよく怒り改より打擲あさんびのさかひたれど流
 人ありて云番とあぶらいつくも一ころよれいつくも及ぶ
 あまら方とそ一山練云せりよハ雅うそをせりし人
 や捕るを四子もあさね友より一令より一山練云らりしれんと

あるハきて海を四西なかりてハハとわたりしと平生生花のら侍
 何のくも事よかあハハとわたりしとわねを身持る月ひあるまじ
 死のよもあはれ何とぞも君のらねるまを年數の甲子
 もよる侍より先く其内及の四了箇よ任るべりしあつよ云番よ
 御納得しとれを其内大よとらるべり別價をよるまをらんハ
 茶の百はありて坊主に被茶をよるし御茶とらるまをかや
 へあつて一合をよるまを侍の侍よ其容飾を切
 ころよま侍にあとも病とわして書籍よ向ひ陰をあらは
 且心同道くとも平伏し忠臣はとて君の清教をあらは書籍の
 ころよも御をあらはし君の忠臣はとて君の清教をあらは書籍の
 向ひのらも雅ありしとて君の清教をあらは書籍の

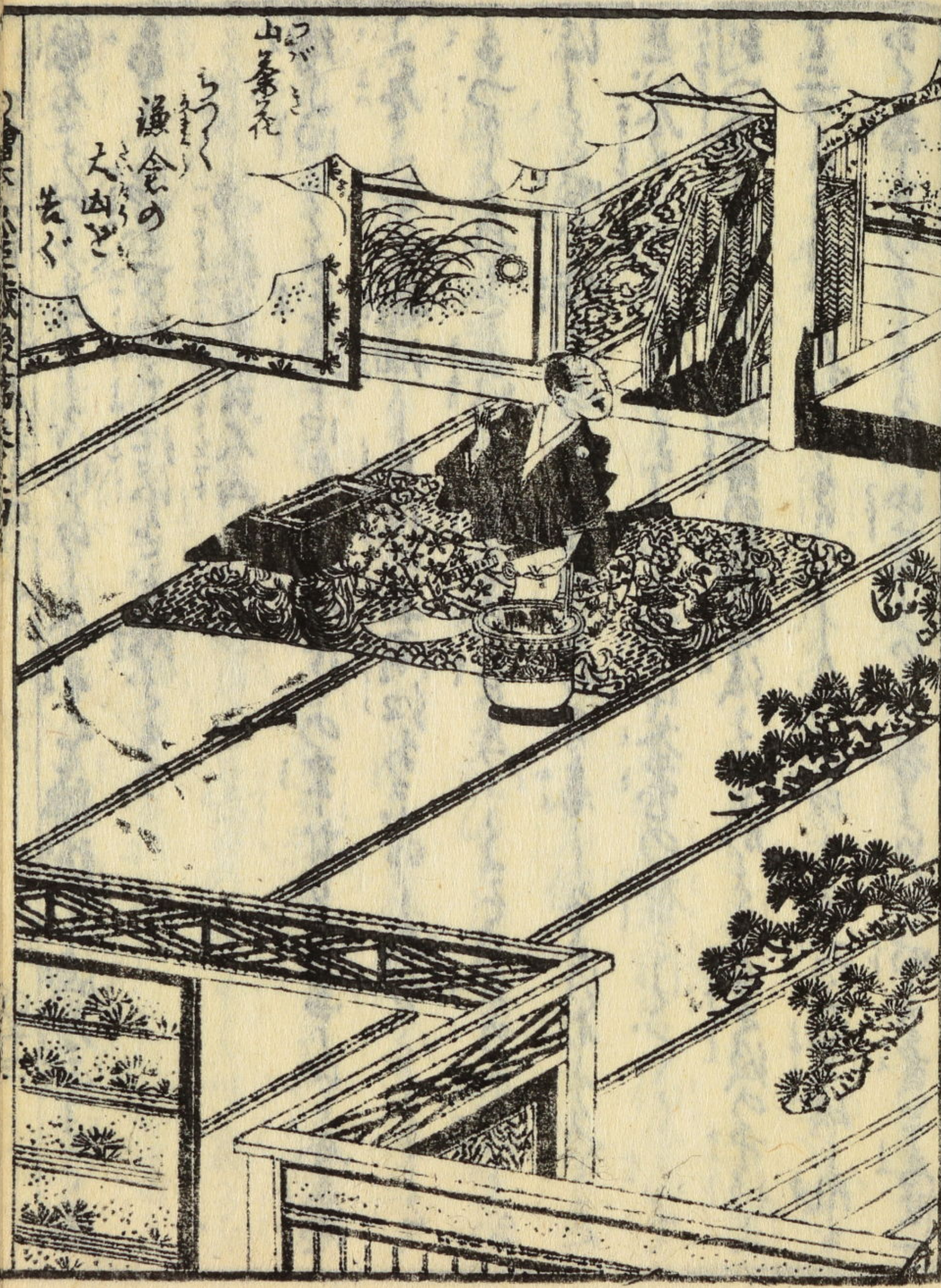


繪本忠臣蔵及甘藷芋

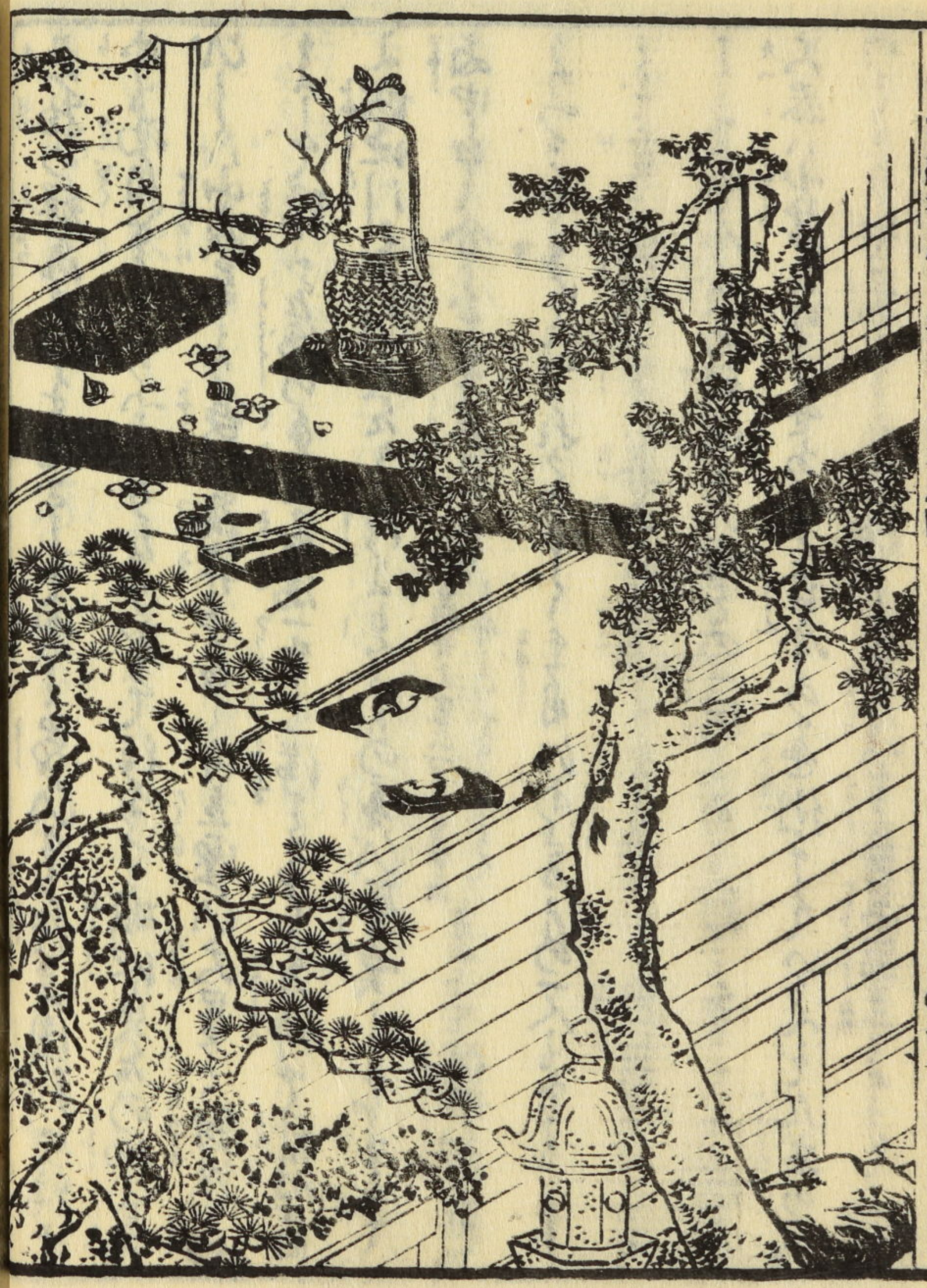


由良の介
 大量あり
 山名の城
 衆人を
 おどろ
 うい

繪本忠臣蔵及甘藷芋



山つがき茶き花
湯ゆ合あの
大お山やまと
去さる

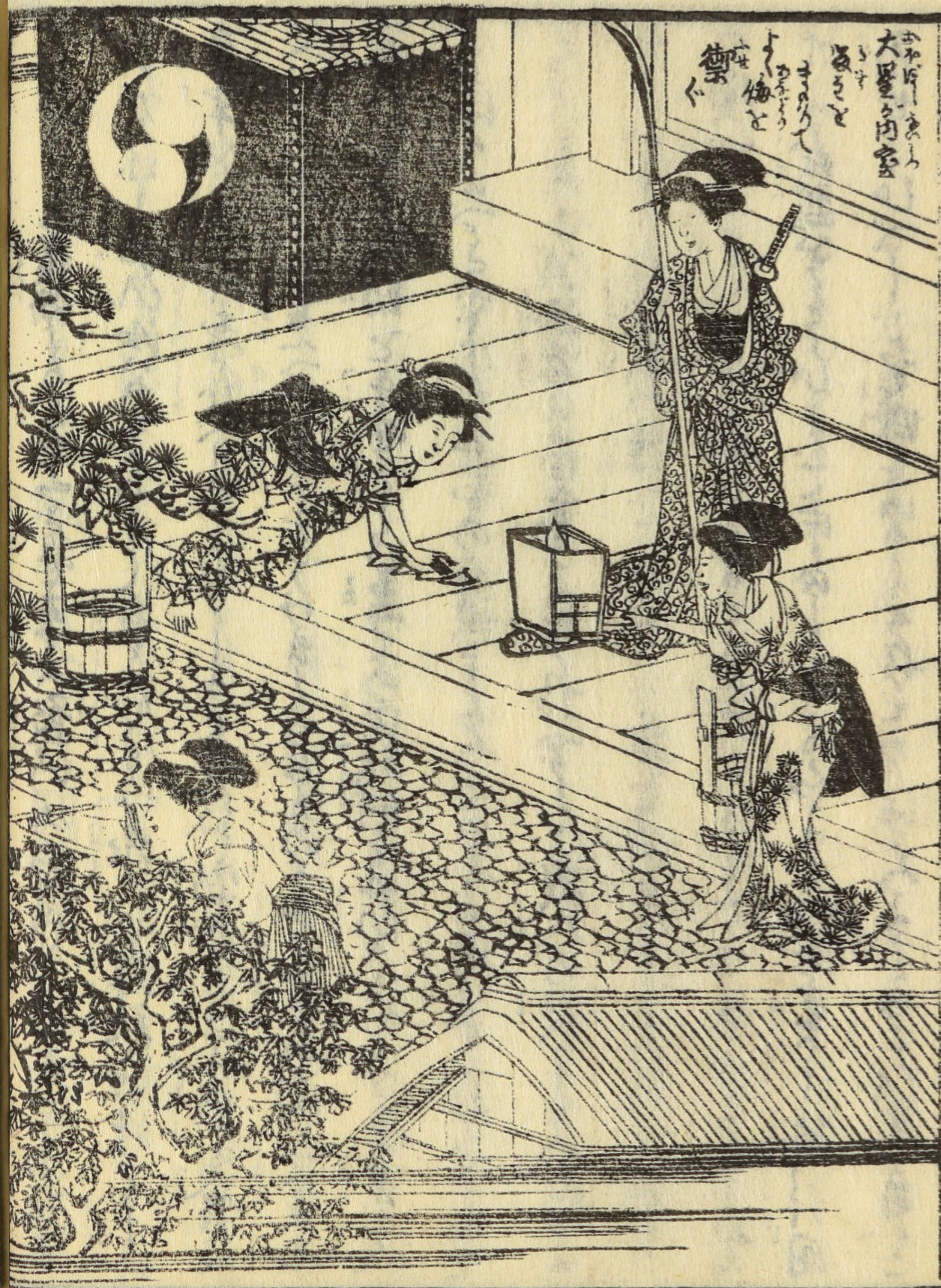


○新本忠臣赤巻卷之四

〇十二

よしあゝ〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 かふ愛半もある事〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 ひひ〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 りき〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 これが事母と〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 おんせ〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 ねも〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 結士〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 一〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 延びひ〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 りき〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ

一〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 結士〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 一〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 延びひ〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 りき〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 これが事母と〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 おんせ〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 ねも〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 結士〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 一〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 延びひ〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ
 りき〜 延びひ〜 何事あり合せ洋もあひあひ



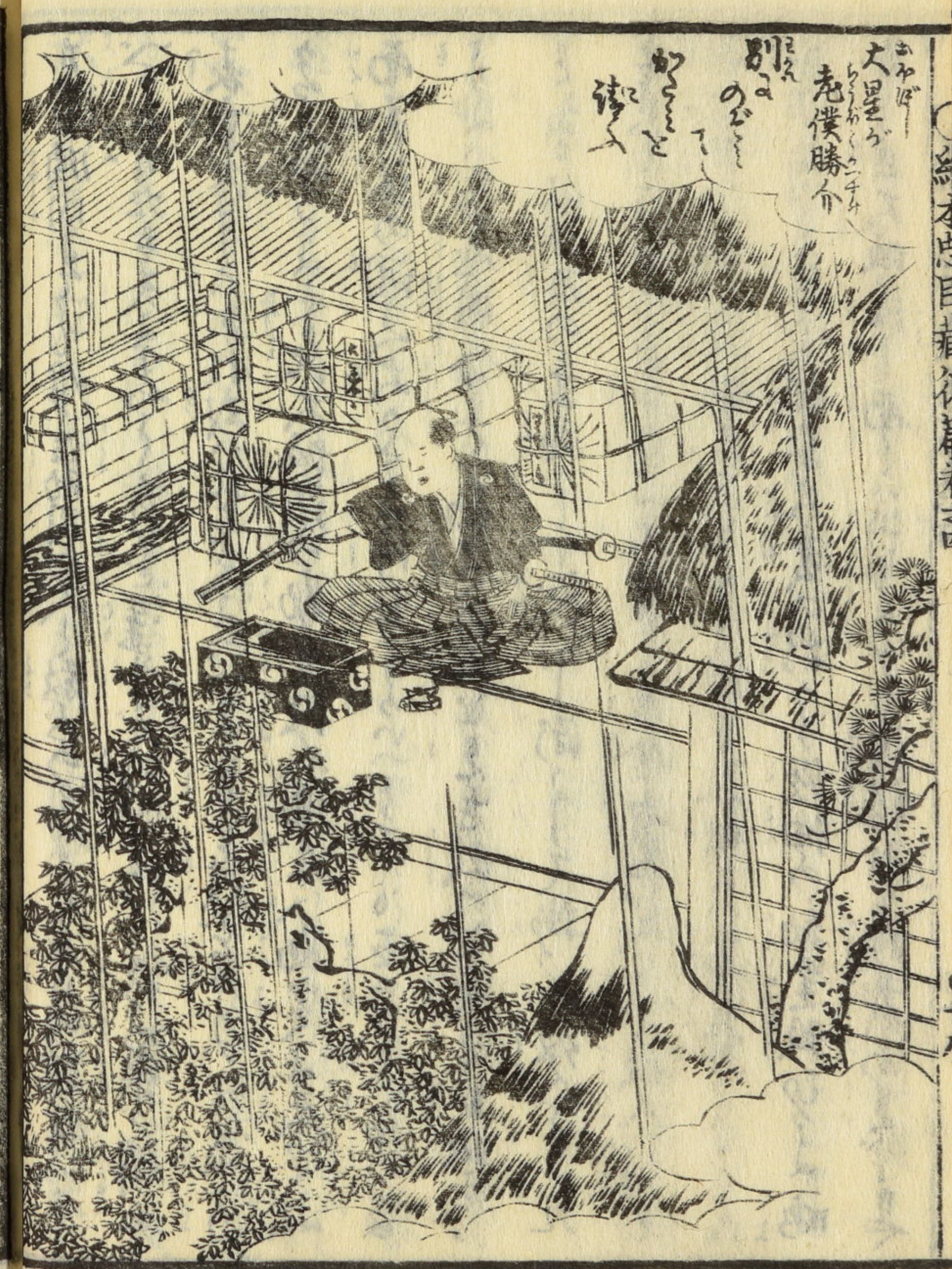
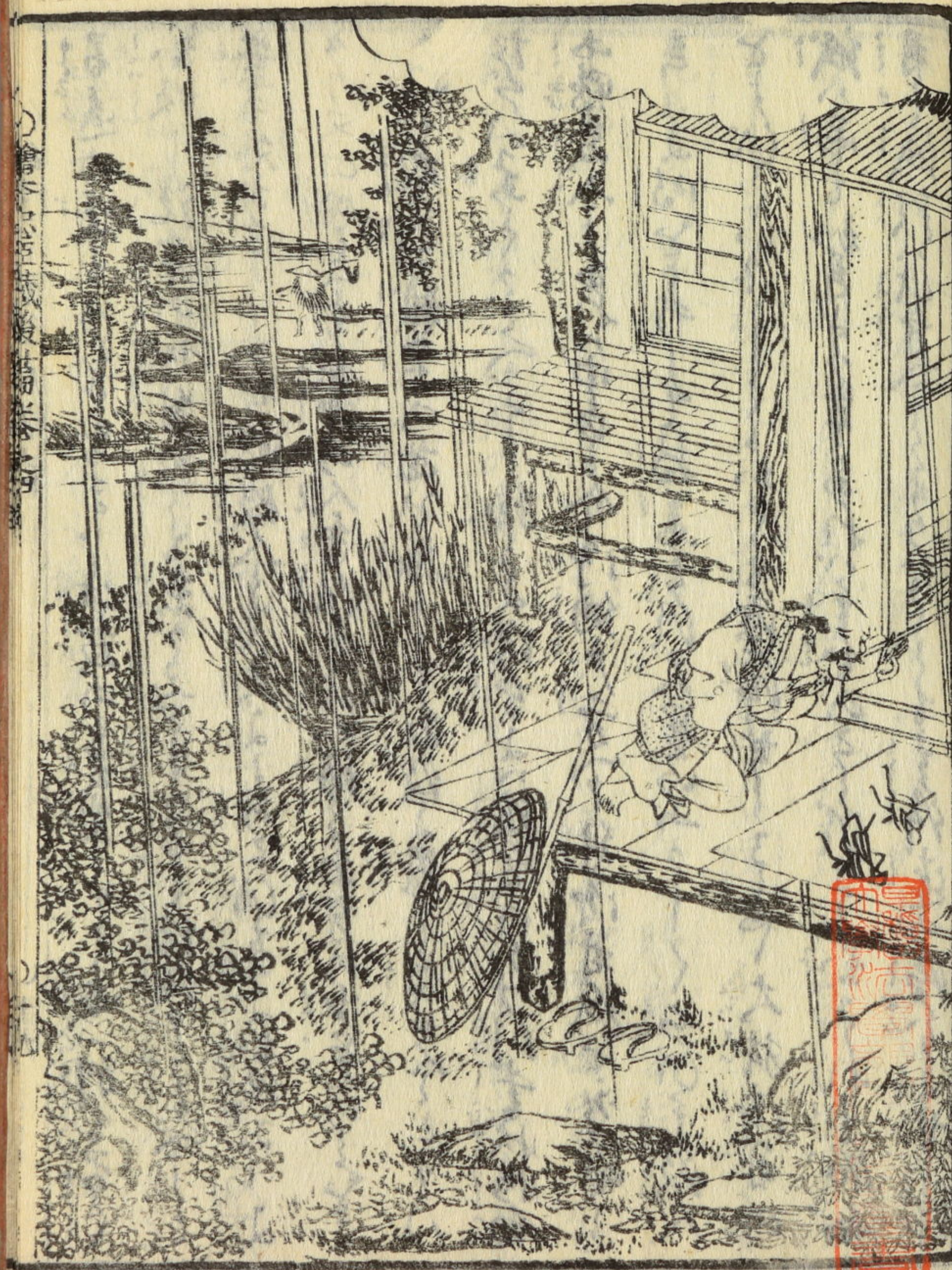
お和州いざな
大星を内室
あそびと
まかりて
よき梅と
徳

あつたはれも未初夜の夜をのこるれば鎌倉の勅許候と
お知しびきよはうく後日のびきをとおぼしと互の夫日と
ふし合ひ合されば何事ともなせらるべしとあるはまつく
そを願言一頁一頁は返教とありたる中あり介父よりし
より心は物まひしとされば越く身へ中宿とありびりよのうて
ぞおらうとさう後よけま技藝の後にお申候は務授一宗家
よりよりしてそは内候まらうありし中より介元朱沈常景
遷の人よりして若くはより武田家の名と根練しと奥妙と極上と
いへども大業は降ゆよあはれは考よる大業取しして三業のあは
もよくあつてあつて思ひをまきびとてく今大星と累設
決新あるとを想ひあはくしと度あり申結あつて法士の棟梁た

目を願肉とてし唯は筋目の人し教ふとてし平日の難事いと
づく芥丸を夫よりつてこれを逢きとけしそも後と樂が辨に
表裏にまふされ或は丸を夫よつてし半と後とるりのもあうり
多と強うよと比大坂法の勅定及人國をへ勅定よ來し此
面是端の調へ大ううよ序付しがいとてしと守素勅の及
まよハお花用人中ぐ勅定の通と見を改りて文くお改ら
とあるにけ及の度函とて延門し御しと掛りの役人より九
を夫とてし事と申おとるが大星と主命お改むべしと役人引つ
中星 大星と申すはとてし九を夫とてしハら有存せしとて
知しねも只今國家大業の折しと後細の勅定改むとて
あし且大坂法し而ははははとてし俸福とも頂戴ありはは

會入の巻後目録

十一



おやぢ
大目星が
老僕勝介
別々の
のど
御入

（糸本庄）百瀬八幡宮参り

幕府の便もろくあるまじけ及の要事多く毎一別もあ
 ね坂一法事の手付あも急なる事あり坂下より
 幕府の料ある事もせぬが役人より大よらるるに直にお返りよ
 かり又はぬえく幕府の人々様ありは法事多分の事是の事
 らねと或は己が職事のおと採りてお返り罪と負せんとする
 たらへまゝくさるるに持るは法事の子付書状情面
 お禮を入りあれは申すに介済納戸方へ付済用紙とせしめ
 且つ又時とらうして持参さる大星いぶくくは役人
 とよびいさくかへて還附せしるや大津清用の
 紙ハ事も知事なる事あればまゝのらびに申されし所を
 用紙に付け方へてらるなりたるも御返の法にせしめ

一付時長招かやうと事ハ法事の子付書状情面
 たりと申されし事より幕府の御返り申す事あり
 らしことども却てまゝに御事とて歸りありしこと
 凡そ幕の事件多く人々始り申すに介が職事ありとせし
 事志ある面ハいさくかへて還附せしるや大津清用の
 法のごく相違ひなきの職とらる大星が招揮しとせしめ
 一あこれよりさるるなり

清民載酒送大星 附者僕勝助法信治

傳は向ころは城中夜々の浮論終つて一休一鎌倉の使者と申す
 一開城一始幕の浮論とかせハ芥子天を法と返け 幕士等あり入く
 返散せし中より介も城下まじく返りて張の酒夜をどし

此圖成山

藏中即

大星の勝介

胸

真清

以て指す



委質六

十委

忠直老

益強

黄金糸

曼實

片堵換

曼牆

蘇亭題

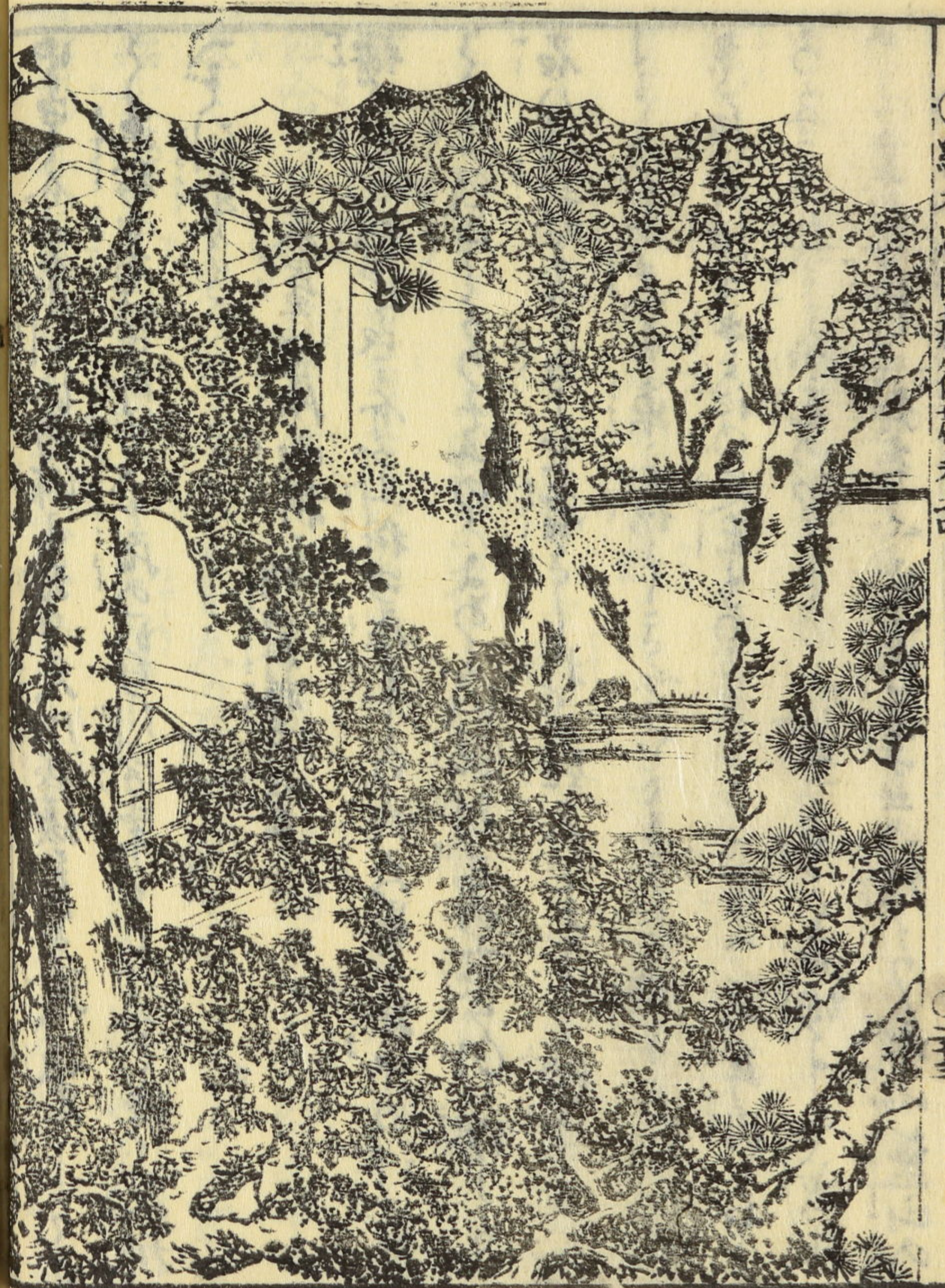




おのりみん
大屋終よ
一片の身汁
出しし
棉荷の
煙を
覆ふ

○三十四

○三五



○三十五

○三十三

事皆傳もあつてふらふらふとやうにありては、
 ありて百人の中よハかあひび一人或ハお令或ハ互板あを
 ひらひひくく之ふありてふ款まましく人々らうは手よ
 事清輝流しと切ぬは、
 として申よハ案内とらふてをを又物あひりあもあつて
 大星がを海流さくは中らあよ及びをを源よまごもあ
 らひてこのこととあつてありかして梅舟の舟もあつて
 変が物せしうに賽後あ附あつてとつて流費と勘き
 あとも陰斗は残令ありて六年人ハりてうに無歌の令を
 多量の形望ほまらるのあひまくの残令とゆいこれ
 いらあ大星が助力のこともあつては後海流ともあつて
 たり是りて大星己が所毛と人よあつてうにうに遠の地
 へ人よ川よをる計すくは終まはけり小判と事清の令
 ひらくせしるあ令を板のたごひのあつてかくまくの令をた
 がしませしや物の正体ハあつてはりて同志の人ようこ
 ころあつてはりて

本志田村御前卷之四
 〇二五

442501

